
孤空間ストリート

夕原あかね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孤空間ストリート

【Nコード】

N6538C

【作者名】

夕原あかね

【あらすじ】

この次元全体を管理する何処にも属さない場所「孤空間」これは、その孤空間の者達と、それぞれの次元の住人達との物語――

胸が重い。

鉛の固まりを飲み込んだような、まさにそんな表現が似合う。

僕は、重くて動きたくない。

しかし、それを体全体が爆発しそうな衝動が、許さない。

この衝動は、じっとしてはとてもじゃないけど我慢できない。

僕は、そのやりきれない思いを晴らすようにして、部屋をかなり長い時間歩き回っている。

勿論、これではすつきりしない。

僕は、巢から落ちた雛鳥のように、意味もなく、気持ちを逸らすためだけに、ただ歩き続ける。

僕は、一枚の紙切れを手を取った。

さつきから何度も、この紙切れを手にしては思い巡らせていたことがあった。

ほとんど廃人と化した僕の、唯一の思い事――

この紙切れを僕に渡したのは、大学生の従兄弟だった。一年ほど前に僕の家に来たとき――今現在これが最後の訪問になっているが――ふと思いついたように一枚の紙切れにペンを走らせると、僕に手渡して言った。

――なんか噂で聞いたんだけど、どんな悩みもすべて解決するという相談所があるんだ。

ここに住所書いてやったから、もしなんかあったら行ってみな。密かに評判あるらしいぜ。あ、行くときは一人だな。なんか一人じゃないと、入れないらしいから。

それからずっとほったらかしたままだったが、最近この紙切れを探さざるをえなくなった。僕は紙切れを手にして、従兄弟の言葉を何度も何度も頭の中で繰り返した――

僕は決心した。

紙切れを引っ掴むと、そのまま外へ出かけた。

紙切れに書いてある住所は、古い家が一軒建っていた。

といつてもこじんまりした和風の家ではなく、結構大きな洋風の家だった。

かなり荒れ果てていて、一見人が居そうにも見えない。

しかし、最後の系にすぎるように、そーっとドアを開けた。

―カラだ。

目の前には誰もいない。

それどころか、ちつとも相談所か何かをやっている雰囲気は全くなく、ただの埃を被った家だった。

―さっきから消えていた鉛の固まりと爆発衝動が、一気に戻ってきた。

もう何もかもが消えた。これからはこの衝動を抑えていくしかないのか。

へたへたと座り込んだとき、

『ようこそいらっしやいました』

声の主は、僕のすぐ側に立っていた。

側にいたのは、意外にも女の子だった。

年は僕と同じか、少し年上で十四歳かそのあたりに見える。

服装は、赤地に黒のチェック模様が入ったワンピース。肩に黒のケープを掛けていて、結構というか、かなり派手な服装だった。

『ようこそここへ』

彼女は暗めの一本調子で言った。

結構美少女なのだが、彼女からは不気味、恐怖といった感情一本しか伝わってこない。

それは一瞬、僕に他の感情を忘れさせた。

『用件は何でしょうか』

彼女の声で、我に返った。

僕の胸から、また鉛の固まりが押し寄せてきた。

「……………」

『まあこんな所で伺うのも何ですから、こちらへどうぞ』

そう言っと、彼女は奥にある部屋の一室を案内した。

『あ、土足で結構です。どうせもう使われてない屋敷ですから』

靴を脱ごうとする僕にそう言っと、部屋へと向かった。

『では改めまして、ご用件をどうぞ』

向かい合わせのソファにそれぞれ座ると、再び彼女が言った。

しかし、何も言えない。

話そうとするたびにあの鉛が喉の近くまで押し寄せてくる。

話したい、話したい、話したい、話そう、話そう………

長い沈黙が続いた。

その間、僕はただ一人の人物の名前を連呼していた。

『……分かりました』

再び彼女の言葉で我に返った。

『ご用件は何となく察しました。』

さっきと同じ一本調子で淡々と話し続ける。

『あなたはいじめを受けていますね。』

……！！

瞬間、鉛が一気に押し寄せてくるように、胸が苦しくなった。

『主核は…浅原青柳……貴方が今連呼していた人物です』

！！

『いじめは二ヶ月ほど前…主に学校で……ふーん、そうですか』
何かつぶやいたかと思うと、こちらをむき直した。

『この程度なら何ともありません。さっさとケリをつけてしまいましょっ』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6538c/>

孤空間ストリート

2010年11月30日03時48分発行